

HOROLOGICAL MACHINE N°6 ALIEN NATION (オロロジカル・マシーン N°6 エイリアン・ネイション)

複雑な機構、究極の職人技、そして不可能に近いほどの見事なサファイアクリスタル製ケースを組み合わせたモデルが、4点のみの限定エディションで登場。

時は西暦2017年、遙か彼方からの訪問者が着陸する。MB&Fが銀河間を旅する宇宙船をイメージして製作したHorological Machine N°6 Alien Nation（オロロジカル・マシーン N°6 エイリアン・ネイション）。それを操るのは、銀色に輝く肌の艦長と5人の乗組員。未知の世界に挑む謎の探検者たちだ。

彼らはずっと以前、正確には1947年に飛来した宇宙からの“訪問者”ではないか、と考える人もいるかもしれない。今から70年前、米国ニューメキシコ州のロズウェルに一機のUFOが不時着したとされ、宇宙人の来訪と政府による隠蔽という現実離れした話に発展する。原子力の時代がゆっくりとしかし確実に宇宙時代へと移り変わりつつあった当時、SFが現代の神話となったのだ。

このように、HM6 Alien Nationの乗組員たちは、これまで全く知られていなかった存在というわけではない。たとえ彼らが、我々の世界とは異なる太陽系から来たのだとしても。宇宙を舞台にしたSF作品や人々の想像の中には、「大きな頭部と黒く光る目を持つ緑色の小さな生物」というイメージが息づいている。また、機械式時計製作、特にMB&Fが体現する現代の独立した時計製造を愛する人であれば、人間とは違う独自の文化や規範を持つ文明種族、というコンセプトに深い親しみを覚えるだろう。

HM6の最初の2つのシリーズ、Space Pirate（スペースパイレーツ）とSapphire Vision（サファイアビジョン）は、無人の宇宙船をモチーフとして創作された。そして今回、MB&Fは、キャプテンシートに生命体を配し、有人飛行を実現する時が来たと判断したのだ。MB&Fの創業者、マクシミリアン・ブッサーは言う。「私が時計に情熱を傾けるようになったのは、生命の躍動を秘めた機械だと感じたからです。」HM6 Alien Nationは、ブッサーが語るこうした時計の性質を忠実に表現している。このマシンに乗り組んでいる宇宙人たちは、何もせずに座っているだけの乗客ではない。HM6のエンジンの周囲を駆け回り、船尾のタービンの修理やギアの調整、スロットルレバーの操作を行い、さらに前方に広がる宇宙空間に目を凝らす。ホワイトゴールド製のミニチュア彫刻フィギュアとなって静止しているように見えても、彼らは船内で精力的に立ち働いているのだ（1人だけ例外なのが特に大柄な乗組員で、艦長の目の届かない隅のほうで怠けている）。

この6人の宇宙人は、1体ずつ個別にデザインされ、ホワイトゴールドを素材として彫刻師のオリヴィエ・クーンが手作業で彫り上げたものだ。特に腕と首は砂粒よりも細かく、1体の宇宙人を仕上げるのに34時間を要する。つまり、6人の乗組員全員を完成するには、フルタイムで製作に取り組んでも1か月以上かかることになる。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Charris Yadigaroglou, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland

Eメール：cy@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 33

高度な技術を持つ地球外文明の星から来た宇宙船のイメージにふさわしく、HM6 Alien Nationのケースはチタン（グレード5）製の補強要素を備えたサファイアクリスタルからなり、全体が透明となっている。より正確には12個のサファイアクリスタルのブロックで構成されており、これらのブロックの加工と研磨に510時間を要する。その工程では、残念なことに破損が生じて、数百時間もの作業が灰燼に帰してしまう場合も多い…。この工程が完了すると、ブロックの組み立てが行なわれる。12個のクリスタルブロックを完璧に組み合わせ、継ぎ目が全くわからない状態に仕上げるのである。

Alien Nationの透明なクリスタルのケースからは、HM6の先鋭的なエンジンの姿を眺めることができる。3年間に及ぶ熱心な開発の成果として生まれた 極めて複雑で斬新な構造のエンジンは、丁寧に仕上げられた496個の部品で構成されている。スライド式シールドを備えた60秒フライングトゥールビヨンの下部にある機構が、時・分表示用の2つのドームを駆動し、これらのドームがムーブメントと垂直方向に回転する。調節用タービンは巻き上げローターと連結している。またAlien Nationの内部には、「AGT Ultra」と呼ばれる高性能の発光素材を用いた太いバンドが配されている。

HM6 Alien Nationは4点のみの限定エディションで、それぞれのモデルに グリーン、ブルー、パープル、ターコイズカラーという異なるアクセントカラーが使用されている。地球上に新しい拠点を見つけるという任務を負った各マシーン。真実はどこかにあるのかもしれない。それでも、MB&FのHorological Machine N°6 Alien Nationは、その行く手を地球に定めたのだ。

HOROLOGICAL MACHINE N°6 シリーズ

MB&Fは2014年11月に、Horological Machine N°6を発表。生物を想わせるカーブとサテン仕上げのメタル素材を採用したシリーズ最初のマシンは、Space Pirate（スペースパイレート）という名で知られている。それから1年あまりが過ぎた2016年の初めに、HM6 Sapphire Visionが発表された。この後続マシンでは、ケースの最上部と最下部が透明なサファイアクリスタルプレートになっており、それらの間にプラチナ製またはレッドゴールド製の中央部分がサンドイッチのように挟み込まれている。

HM6の創作における最初のインスピレーションの源となったのは、1970年代から1980年代にかけて放映された日本のテレビアニメシリーズ、『キャプテン・フューチャー』である。このアニメには、主人公であるキャプテン・フューチャーと、奇抜な球体で構成された宇宙船が登場する。『キャプテン・フューチャー』のストーリーは未来の世界が舞台となっているのだが、そのメカデザインは、ルイジ・コラーニなどの現代デザイナーが表現するスタイルや、コラーニが好む生物の形態をモチーフにした曲線フォルムに通じるものがあった。Horological Machine N°6では、この非常に刺激的なデザイン理念を採り入れて、生物の形からヒントを得たサテン仕上げのチタン製ケースを創作。そこには、意外性に満ちたセンシユアルな魅力が発揮されている。

HM6 Sapphire Visionの場合、そのグラフィックデザインのヒントになったのは、米国のグレイハウンド社が1950年代から1960年代にかけて運行していた、いわゆる「ストリームライン・モダン」様式のバスだ。旅の象徴にもなったこのバスの車体の水平ライン、そして輝きを放つ金属サイディングがマシンに採り入れられた。

HM6のエンジンはあらゆる面で、このレトロモダンなスタイルと、宇宙旅行や宇宙開発技術のイメージを巧みに組み合わせられて製作されている。それは例えば、カーブしたブレードを備えた流れるようなデザインのタービンや、映画のワンシーンのように手で開閉するシールドに守られたフライングトゥールビヨンなどに表現されているのだ。HM6のエンジンでは、MB&Fのアイコンとなっているバトル・アックス（戦闘用の斧）のフォルムが2か所に見られる。すなわちローターに片斧型のバトル・アックスが、上部のトゥールビヨンケーシングに両斧型のバトル・アックスが用いられている。

HM6 Space Pirateは68点の限定エディション（チタン製モデルが50点、レッドゴールド／チタン製モデルが18点）、HM6 Sapphire Visionは20点の限定エディション（レッドゴールド製モデルとプラチナ製モデルがそれぞれ10点ずつ）として製作された。これらに4点の限定エディションであるAlien Nationを加えると、現時点で存在するHorological Machine N°6モデルは92点のみということになる。つまり、HM6はUFOの目撃情報よりもずっと希少といえるだろう。

生産個数をカウントしている時計愛好家のための参考として記しておく、今後製作されるHM6エンジンは8点のみとなる。

HM6 エンジン

大胆なデザインの外観には、それに匹敵するほど革新的なムーブメントがふさわしい。HM6のエンジンは、既存のどのムーブメントにも似ていない。なぜなら、このエンジンと同じようなムーブメントはどこにも存在しないからだ。この極めて複雑なムーブメントは、丁寧に仕上げられた496個もの部品によって構成されている。

各タービンは、それぞれ2つの半球を備えており、2組のカーブしたブレードが、日常の使用による損耗からムーブメントを守っている。これらのタービンは巻き上げローターと連結していて、ローターの慣性モーメントが一定レベル以上に大きくなると、タービンによって空気抵抗が増し、ローターの回転速度が下がるようになっている。その結果、自動巻き機構が自動的に調節され、ムーブメントの耐久性が高まる。

このエンジンは、MB&Fが製作した2番目のトゥールビヨンムーブメントであり、初のフライングトゥールビヨンでもある。たとえ最良の状態であっても、フライングトゥールビヨンは極めて繊細な機構であるため、ほとんどの場合、ムーブメントプレートからあまり離れて配置されることはない。それに対し、HM6のエンジンのフライングトゥールビヨンは、ムーブメントの上方に突出した位置にあり、しかも（特にムーブメントの心臓部と計時機能の源となる部分に関して）動作安定性の問題が解消されている。またHM6のエンジンは、ある点において自然の法則を考慮した設計を採用している。つまり、紫外線的作用による調速機構内の潤滑油の酸化を最小限に抑えるために、スライド式に開閉するシールドによってフライングトゥールビヨンを保護しているのだ。

HM6エンジンの2つの時・分表示用ドームは、紙のような薄さに加工されている。これは極めて難しい工程で、MB&FがHorological Machine N°3の製作において培った技術によってのみ実現できる加工である。これらのドームがムーブメントのその他の部分とは垂直の方向に回転することで、より一層複雑な機構に仕上がっている。

HM6のエンジンは、MB&Fのエンジニアリングチームと、David Candaux Horlogerie Créative（ダヴィッド・カンドー・オルロジュリー・クレアティブ）社の創業者であるダヴィッド・カンドーが協力し、3年間にわたって熱心に開発に取り組んだ結果として生まれた機構なのだ。

宇宙からの訪問者

Horological Machine N°6 Alien Nationの乗組員である6人の宇宙人は、1体ずつ個別にデザインされ、ホワイトゴールドを素材としてAtelier-Création Kuhn（アトリエ・クレアシオン・クーン）の熟練の彫刻師、オリヴィエ・クーンによって手作業で彫り上げられている。1体の宇宙人を仕上げるのに34時間を要するので、HM6エンジンの6人の乗組員全員を完成するには、フルタイムで製作に取り組んでも1か月以上かかることになる。

他の全ての時計部品の製作に用いられる従来の加工方法では、この宇宙人のフィギュアは製作することができない。というのも、これらの宇宙人は身体の形が非常に不規則で、しかも隣接する部分間でサイズがかなり異なるからだ。例えば、頭部は大きい首は細く、胴体は幅が広いといった具合だ。具体的には腕のサイズが直径わずか0.25mm、首も同様に0.3mmという細さで、比較のために挙げておくと、砂粒の平均直径は0.5mmである。

宇宙人に関する描写は、スピルバーグの映画に出てくる大きな目をした自転車のカゴに収まるくらいの大きさの親しみやすいETや、画家のギーガーがデザインしたことから「ギーガーレスク」スタイルと呼ばれる恐ろしいゼノモーフ（エイリアン）など、彼らが登場する話の内容によって様々である。マクシミリアン・ブッサーが少年時代を過ごした1960年代の終わりから1970年代にかけては、ロズウェル事件やエリア51について多くの説が飛び交い、人々の関心がピークに達していた。そうした時代に育ったブッサーは、Horological Machine N°6に乗り組む宇宙人について、迷うことなくスムーズにイメージすることができたのだ。

サファイアクリスタル製の宇宙船

Horological Machine N°6 Alien Nationのケースは、ストラップの取り付け部分にもなっているチタン製の補強要素を除くと、全体がサファイアクリスタルで構成されている。少し前までは、HM6に採用されているような精緻なフォルムをサファイアクリスタルで作ることなど不可能だっただろう。

Horological Machine N°2 Sapphire Visionの発表以来、MB&Fの作品は、この点に関する可能性の限界に挑み続けてきた。例えば半球形の「目」を持つHorological Machine N°3 Frog（フログ）や、ケースにダブルアーチ型の窓ともいべきサファイアクリスタル部分を備えたHorological Machine N°4 Thunderbolt（サンダーボルト）が製作され、その後もサファイアクリスタルを用いたさらに意欲的なデザインが生み出されている。

Horological Machine N°6 Alien Nationのケースは、12個のサファイアクリスタルのブロックで構成され、これらのブロックが、継ぎ目が全くわからない状態に組み合わせられている。必要なブロックを全て製作するには、その組み立て工程を除いても、510時間を要する。ブロックの加工と研磨は極めて難しく、残念なことに、それらの作業中に破損が生じる場合も多い。例えば、300時間以上をかけて作業を行なった後で、サファイアクリスタルにひびが入り、一瞬にして数か月分の作業が灰燼に帰してしまうことすらあるのだ。

こうした工程を経て最終的に得られたケースは、まさに高度な技術と精緻な作業によって達成された快挙と呼べるだろう。

宇宙の光に照らされて

Horological Machine N°6 Alien Nationでは、発光素材を使用したバンドが入念に配されており、美しい透明のケースとその滑らかなカーブを際立たせている。この（Ambient Glow Technology社製の）AGT Ultraのバンドは、ミドルケースの内側の周縁に沿って取り付けられていて、輝くような明るい光を発する。

電気の光に近い、驚くほど明るい光を発するこのハイテク素材は、（Black Badgerブランドの）デザイナーのジェームズ・トンプソンによって、初めて時計製造の分野に採用された。つまり、MB&FのHMX Black Badger（HMX ブラックバジャー）とStarfleet Machine Black Badger（スターフリートマシン ブラックバジャー）において、既に使用されたことがある。HM6 Alien Nationは4点のみの限定エディションで、各モデルにはそれぞれ異なるカラーのAGT Ultraが用いられている：グリーン、ブルー、パープル、ターコイズカラーという異なるアクセントカラーだ。

精密な塗布が必要な細かい部分には、スーパールミノバが使用されている。具体的には、タービンブレードの上面やダイヤルのマーカー、摩擦車、MB&Fのロゴ、上部のトゥールビヨンケーシングに、各モデルに用いられているAGT Ultraと同色のスーパールミノバが塗布されている。

HM6 Alien Nationの各モデルは、強い光が当たっている時でも互いに区別することができる。というのも、ケースのジョイント部に、各マシンの内部に使用されている発光素材と同色の防水ガスケットが取り付けられており、このカラーが外側から見えるようになっているからだ。また夜には、Horological Machine N°6 Alien Nationが地球上のものとは思えないほど鮮やかな光を発し、生き生きとした魅力を放つ。

HM6 ALIEN NATIONの技術仕様

4点のみの限定エディション（ブルー、グリーン、ターコイズカラー、パープル）

エンジン：

ダヴィッド・カンドーとMB&Fが協力して開発したHM6専用の3次元オロロジカル・エンジン
チタン製のスライド式半球状シールドを備えたフライングトゥールビヨン

プラチナ950製バトル・アックスの自動巻きローター。カラー： グリーンのモデルではグリーン、ブルーおよびターコイズカラーのモデルではブルー、パープルのモデルではパープル。
巻き上げローターによって作動する、スーパーミノバが塗布されたアルミニウム製ツインタービン

パワーリザーブ： 72時間

振動数： 2.5 Hz / 18,000 bph

部品数： 496

石数： 68

機能／表示：

時・分はそれぞれ別々の半球形のアルミニウム製インジケーターで表示

左側のリュウズでトゥールビヨンのシールドを開閉； 右側のリュウズで時刻合わせと巻き上げ
ツインタービンが自動巻きローターを調整

HM6 Alien Nationの特性：

宇宙人のフィギュア： ホワイトゴールド製。ムーブメント内にそれぞれ異なる5体の宇宙人、およびケース上に1体を配置

AGT Ultra (Ambient Glow Technology社製)： 内側の周縁が固体発光素材のAGT Ultraを使用した4つのバンドによって発光

スーパーミノバ： タービン、ダイヤル、摩擦車、ムーブメント上部のMB&Fのロゴ、およびトゥールビヨンのブリッジのバトル・アックスに塗布。グリーンのモデルではグリーン、パープルのモデルではブルーのスーパーミノバを使用。

ガスケット： AGT Ultraと同色のガスケット。ブルーのAGTが用いられているモデルにはブルーのガスケット、グリーンの場合にはグリーン、パープルの場合にはパープル、ターコイズカラーの場合にはライトブルーのガスケットを配置。

ケース：

チタン（グレード5）製の補強要素を備えた、全体がサファイアクリスタル製のケース

サイズ： 51mm x 50mm x 22.7mm

部品数： 95

防水性能： 30 m / 3 atm

ストラップ & バックル：

手縫いのグレーのアリゲーターストラップ、ガスケットのカラーにマッチするステッチ入り。カスタム設計のチタン製フォールディングバックル。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Charris Yadigaroglou, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland

Eメール： cy@mbandf.com 電話： +41 22 508 10 33

HM6 ALIEN NATION担当の「フレンド」たち

コンセプト：マキシミアン・ブッサー (MB&F)

デザイン：エリック・ジルー (Eric Giroud Design Studio)

技術・製造管理：セルジュ・クリクノフ (MB&F)

研究開発：ギヨーム・テヴナン、ルーベン・マルティネス (MB&F)

ムーブメント開発：MB&Fおよびダヴィッド・カンドー

サファイアケース：セバスチャン・サンシュ、グレゴリー・エスリック (Sebal)

宇宙人のフィギュアの製作：オリヴィエ・クーン (Atelier Création Kuhn)

ホイール、ピニオンおよび軸のプロファイル旋削：ドミニク・ギュイエ (DMP)、イヴ・バンディ (BANDI)

スチール製スプリング、アルミニウム製タービン：アラン・ペレ (Elefil)

トゥールビヨン：ドミニク・ロペール (Precision Engineering)

スライド式シールド：バンジャマン・シニュード (AMECAP)

プレートとブリッジ：ロドリグ・ボーム (Damatec)、ジョルジュ・オエル (Mecawatch)、バンジャマン・シニュー (AMECAP)

プラチナ製巻き上げローター：デニス・ヴィラルール (Cendres et métaux)、ピエール＝アルベール・ステインマン (Positive Coating)

ムーブメント部品手仕上げ：ジャック＝アドリアン・ロシャ (C.-L. Rochat) & デニス・ガルシア (C.-L. Rochat)

ムーブメント組み立て：ディディエ・デュマ、ジョルジュ・ヴェイジー、アン・ギテ、エマニュエル・メートル、アンリ・ポルトブフ (MB&F)

社内機械加工：アラン・ルマルシャン&ジャン＝バティスト・プレト (MB&F)

品質管理：シリル・ファレ (MB&F)

アフター・サービス：トマ・インベルティ (MB&F)

バックルの設計および製造：ドミニク・メニエ (G&F Châtelain)

シールド機構を持つ特殊なリュウズ：ジャン＝ピエール・カサール (Cheval Frères SA)

時・分表示ドームのメタライズ：ローラン・リネール (Econorm)

時・分表示半球：Natéber

ストラップ：オリヴィエ・ピュルノ、カミーユ・フルネ

スーパーミノバ：オーロラ・アマラル・モレイラ (Panova)

AGT Ultra：ジェームズ・トンプソン (Black Badger)

化粧箱：オリヴィエ・ベルトン (ATS Atelier Luxe)

ロジスティクスおよびプロダクション：ダヴィッド・ラミー&イザベル・オルテガ (MB&F)

マーケティングおよび広報：シャリス・ヤディガログルー、ヴィルジニー・メイラン、ジュリエット・デュル (MB&F)

M.A.D.ギャラリー：エルヴェ・エスティエンヌ (MB&F)

販売：スニタ・ダーラムゼイ、リッツァ・ナルズ、フィリップ・オグル (MB&F)

グラフィックデザイン：サミュエル・パスキエ (MB&F)、アドリアンシュルツ&ジル・ボンダラ (Z+Z)

製品撮影：マールテン・ファン・デル・エンデ

ポートレート撮影：レジス・ゴレ (Federal)

ウェブサイト：ステファン・バレ (Nord Magnétique)、ヴィクトル・ロドリゲス&マチアス・ムンツ (Nimeo)

映像：マルク＝アンドレ・デシュー (MAD LUX)

テキスト：スザンヌ・ウォン

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Charris Yadigaroglou, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Geneva, Switzerland

Eメール：cy@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 33

MB&F – コンセプトラボの誕生

2015年、MB&Fは10周年を迎えます。史上初のオロジカル・コンセプトラボが経験した豊かな10年です。MB&Fを一躍有名にした、かの有名なオロジカル・マシンとレガシー・マシンを構成する11個のキャリバーが象徴する、極限の創造性の10年と言えます。

15年間高級時計ブランドのマネジメントに徹したマキシミリアン・ブッサーは、2005年にハリリー・ウィンストンのマネージングディレクターを辞任し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー&フレンズ）を設立。MB&Fは、ブッサー氏が尊敬しコラボレーションを共に楽しむ才能あるオロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプトの腕時計デザインと小規模の製作を行う、アートとマイクロエンジニアリングのラボです。

2007年、MB&Fは初のオロジカル・マシンHM1を発表。HM1の彫刻のような3次元ケースと美を追求して仕上げられたエンジン（ムーブメント）は、奇抜とも言えるその後の同社オロジカル・マシンの基準となりました。HM2、HM3、HM4、HM5、HM6、HM7、HM8、そしてHMX。すべては時刻を告げるためだけのマシンではなく、自らが時を知るマシンなのです。

2011年にはMB&Fはラウンドケースのレガシー・マシン・コレクションを世に送り出しました。MB&Fの視点から言えばよりクラシカルなこのラインアップは、現代的な芸術作品に仕上げる上で、過去の偉大なオロジカル革新者が生み出した複雑エンジンを新たに解釈し直し、19世紀の優れた時計製造技術を讃えています。LM1とLM2に続いて発表されたLM101は、完全自社開発したムーブメントを搭載している初のMB&Fマシンとなりました。2015年は完全一体型のパーペチュアルカレンダーが特徴のレガシー・マシン・パーペチュアルを発表。MB&Fは、現代のかつ非常に斬新なオロジカル・マシンと、時計製造の歴史をインスピレーションの源とするレガシー・マシンを交互に発表しています。

MB&Fは、オロジカル・マシンとレガシー・マシンの他にも、オルゴール製造を専門とする「リュージュ」とのコラボレーションによる宇宙時代を象徴したオルゴール（MusicMachine 1、2、3）や、「レペ1839」とのコラボレーションによる宇宙ステーションをイメージしたフォルムの独特な置時計（Starfleet Machine）、クモをモチーフにした時計（Arachnophobia）、ロケットをテーマにした置時計（Destination Moon）、さらに3つのロボットクロック（Melchior、Sherman、Balthazar）などを製作しています。2016年にはMB&Fと「カラダッシュ」が共同で、アストログラフ（Astrograph）と名付けられた機械式のロケット型万年筆を制作しました。

またMB&Fの軌跡における、その革新的な本質を証明する受賞機会もありました。すべてを網羅することはできませんが、名高い「ジュネーブ時計グランプリ」においては4つものグランプリを獲得しています。2016年にはレガシー・マシン・パーペチュアルが「ベストカレンダー ウォッチ賞」を受賞。2012年にはレガシー・マシンNo.1が「パブリック賞（オロジファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」を受賞しました。また2010年には、MB&F のHM4サンダーボルトが「最優秀コンセプト&デザインウォッチ賞」を受賞。さらに2015年には、HM6スペースパイロットが、国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最高位の「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。